バー」というプロジェクトを立ち上げま 若い人の成長に関わりたくなり大学 れば」と考えるようになり、 職員になりました。 で働いていましたが 以前は中高生の留学を支援する企業 携に関わった経緯をお聞かせください ていると思っています(※1) 受講するなど、 さまざまな体験の機会を提供しなけ した(26ページ図1)。 ・最初に自己紹介を兼ね、 桜美林大学入学部の高原です。 一定の支持をいただい そこで「高校生に 点ではなく線で 延べ約1万人が . 「ディスカ 高大連

ましたが、 士課程修了後、 九州工業大学の中尾です。 研究に専念したくなり大 私も民間に勤めてい

> を続けています。 たキャリア教育を推進しており、 は、 人とをつなぐことが大好きです。 えている中村です。 学に移りました。 環で本校でも東京の大学生と交流 前講義や模擬講義を続けています。 各地の高校や小中学校と連携し 山形県立東桜学館中学校 島根県立吉賀高校で英語を教 中・高校と地域が 2007年ごろから 個人的にも、 学校のある吉賀町 一体となっ

積極的に交流し、現場に活かしています。 校で国語を担当している延沢です。 大学の先生を含む全国の先生方と 。私も人と会うのが好き 進路指導 今 高 生と、 ました。 すのですが

は高2の学年主任ですが、

にお話しいただき、 あれば発言していただければと思いま 改めて実践に込められた思いなどを順 ありがとうございます。 最初に高原さんお願いします。 質問や感想などが それでは

## 何かに取り組む機会を提供したい 高校生が自分を知り、主体的に

んでいることが数年前から気になってい 計画を自分ごととして書けている高校 を始めとした入学部の職員が目を通 今でいう総合型選抜の出願書類を、 そうでない高校生の一 高校時代に力を入れたこと 志望理由や4年間の学修 桜美林大学ではAO入試 一極化が進 私

島根県立吉賀高校 教諭

## 中村美楠子

なかむら・みなこ●広島大学教育学部卒業。学生時代イ ギリスに留学。担当教科は英語。前任校の島根県立大 東高校ではキャリア教育担当として先導的に「キャリア・ パスポート」を導入。2019年より吉賀高校。



山形県立東桜学館中学校·高校 教諭

## 延沢恵理子

のべさわ・えりこ●高校教員初年度から教員生活のほとん どにおいて進路指導を担当。現在、キャリア教育を含む5 つの研究会の運営事務局を担当。2016年より県内初の 併設型中高一貫教育校である現任校に。中学1年から持 ち上がり、今年度高校2年の学年主任。教科は国語。

High School



オンライン



てきたことの価値に気づいていないこと

くわかります。

生徒は、自分ががんばつ

Symposium 高校生の「学びたい」を育てて、つなぐ、高大連携の先にある未来

もあって、

面談してみると「すごいじゃ

何に気づき、どうしていきたいか」を

せんが、

首都圏では出張講座などの手

例として適切でないかもしれま

な取組

\$

いかに主体的になれるかが

が

・重要ですよね。

高大連携のさまざま

協力の下、 いう危機感から、 める学生とのマッチングが難しくなると ショップに加え、 と感じました。 ていることに加え、 ように部活動の話ばかり。 トなど多彩な体験プログラムを高校生 に提供するようにしたんです。 返り、 自 整理・言語化する機会が減る 己分析」が大切なことはよ グローバル、 自 SDGs,

増えていますが、 最近では 「探究」に関する記述が このままでは本学が求 少し前は判を押 経験自体が少ない 三一分析のワーク 自分を振

各界の専門家や教員 アー

の良さを引き出せているかというと難 取 しさも感じます。 んです。 ん」と思えることが実はたくさんある 組はありがたいです。 師 副側の経 ただ、 験の面でも、 時間も限られるなか こういう大学側 すべての生徒

迷わせ、

勉強の効率が悪くなると考

た。

では、 ガチの学校ではないため、 と交流するなかで「なんにもない場所 中村 を見据え、「自分はどんな経験をし、 たのか」と気づくわけです。 だと思っていたけど、こんな魅力があっ いる地域の良さに気づいていません。 後で話しますが、 うちの生徒も自分たちが住んで 一自分を客観視できないという点 東京の大学生 総合型選抜 受験ガチ で

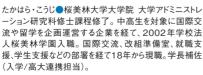
> では も心あたりがあって、 言語化できるよう指導しています 勉強と部活動だけさせがちでし もう一つの「経験不足」について 私がいた進学校

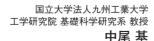
えたからでしょう。 値を増やす重要性を感じています。 する学びや深い思考のためにも、 ことは知っていることの中からしか生ま 高原その際、 ません。 キャリアの面でも、 自発的であるかどうか しかし、 やりたい 腹落ち 経

出すと誘惑があり、 高大連携に取り組んできた先生方に、 これまで組織として、個人として 大学と高校から二人ずつ参加いただき ・音を交えながら語り合っていただきました。 !単なことではないはずです。 .大連携の価値や課題、そして高校生の未来について 生徒を

University

桜美林大学 入学部 部長 高原幸治





なかお・もとい●大阪大学大学院 工学研究科博士後期 課程修了。博士(工学)。堀場製作所、大阪府立大学を 経て2006年九州工業大学。副理事(就職支援担当)、 キャリア支援センター長、PBL教育推進室長などを併任。 小・中学校・高校を対象とした出前講義は150回近くに。





高校と大学とが本当の意味で連携するのは

それぞれ役割や目的があり、置かれた事情も異なる

# では大学はどう変わるのか 高校が変わろうとしている今、 (高原さん)

生徒さんが前のめりだと感じるのは 徒さんは受け身になってしまいます。 でも業者任せにすると、どうしても生 配を業者さんがすることがあります。 中尾わかります。 出前講義に行って

いただく感想も心に刺さるんです。 らされている感が少ないのか、後から 頼関係も厚いように見えるクラス。 高校の先生が主体的で、 義を続けてこられた理由は何でしょう。 中尾教授が十数年前から出前講 生徒との信 Þ

# |勉強=つらいこと

という思い込みを外したい

にやりがいを感じるようになったんで ことで学生が目に見えて成長し、 やアクティブ・ラーニングを取り入れる 教育改革の担当となり、 そも大学の教員は教育に関心がない人 高校生は面白がつてくれません。そも マ的に始めたんです。それを見透かさ やはり研究が楽しいんです。 正直、 私も40代頃まではそうでし 物理や半導体の話をしても 最初は大学の方針でノル PBL(**図**2 教育 でも、

> す。 ほしいと思っています。 そうではない学びがあることを知って がある学びに慣れている子どもたちに 要 、素を取り入れていきました。 それに伴い出前講義にもPBLの

方で、 師の役目かなと思っています。 なんじゃないの」と伝えるのも高校教 となってしまいがち。なので「面白さっ と思えることが大切だと思います。 見て、「学びってかっこいい、 るじゃないですか。その姿を高校生が て、苦労を背負ってでも向き合うこと あるわけで、そこを見落とすと、「な んだ。大学に入ったらつまらんかった. 延沢 大学の先生って研究に没入なさ 1の楽しさの裏には99の努力が 楽しそう

みを外すことを優先したいです。 を言い過ぎても、 中尾確かに、 けませんよね。 バランスが難しいですが、 「勉強=つらいこと」という思い込 良い面ばかり見せては ただ、現実的なこと やる気が失せてしま 個人的

学ばざるを得なくなる」と話す教員が うち周辺領域で必要なことが生じ、 「好きなことをしていれば、

答え

学校で進路も多様。 りとやってのける。 そんなことからも 悪戦苦闘しているのに自分たちはさら 価値があることに気づくわけです。 の交流にどんな意味があるかというと、 分の1という環境で、 うちは全校生徒100人強の小さな きるか」といった自己分析や、「町のこ たことを契機に交流が続いています。 法政大学の学生さんが田舎体験にき 自分は何が得意で、 域や自分たちの学びに実はすごく なる背景をもつ人と接することで、 河原での火起こしを大学生は 大学進学者が3 東京の大学生と 人にどう貢献で 例

が大きく変わるかもしれませんしね

える機会になっているんです。(※2)

延沢。そうした経験で、

進路や未来

異質なものとの出会いは、

それまで考

私も前者を重視したいと思っています。 せませんが、どちらかというと最初は いました。意欲と学力はどちらも欠か

## 価値観を揺さぶる 異質なものとの出会いによって

とをもっと知って良くしたい」という当 実践(図3)と、それが生徒に与える 効果についてお話しいただけますか。 中村 10年近く前、青山学院大学や 続いて、 中村先生。 吉賀高校の

事者意識も生まれます。

進学するし

ないに関係なく、

いろいろなことを考

図1: 高原さんの実践

「ディスカバ!」 桜美林大学が提供する高校生向けキャリア支援プロ グラム。前身の取組を統合し2019年からスタート。コ ロナ禍の昨年も、グローバル、SDGs、アート、音楽、航 空、観光、ウェディングなど70のプログラムをオンライン で開催。「探究体験」「世界探究」など探究を冠したプ ログラムも充実。一連の活動実績も踏まえ、2021年 9月から新たな入試方式「探究入試」(Spiral)の出願 を開始。高校の教育課程内外を問わず探究に取り組 んできた高校生を対象に、探究学習のサイクルをどう 回せたかなどを評価する。

そこから何かが見えてくる 本音を話すことが高大連携の第一歩 (中尾教授

つなげる子もいれば、

多様な人との出

に価値を一旦壊すことで、

深い学びに

なのかなと思いました。

中村 ですよね。 当たり前と思ってい

えもしなかった可能性の扉を開くこと

会いをきっかけに、

地域の中でやりた

うして?」と質問攻めですからね。

皆さんの話を伺いながら、高大連携つ

リットだけを押しつけてはいけないとい

中村
私がいつも思うのは、

高校のメ

加するたび刺激を受けています。 ングアシスタントとして出前講義に参

小学生は好

奇心旺盛で、「なぜ、

سلح 特 する学生さんもいて嬉しく思います。

研究室の大学院生も、ティーチ

生も同じで、

卒業後、

島根県で就職

観を揺さぶる効果がすごくあります。

異なる高校生との出会いは、

価値

中村価値観が揺さぶられるのは大学

ことが醍醐味の一つ。

普段の教室と違

進路多様校まで幅広く参加してくれる

いことを見つける子もいます

高原「ディスカバ!」も、

進学校から



## 学びをつなぐだけではなく、 人と人とをつなぎたい (中村先生

図2: 中尾教授の実践 PBL(課題解決型学習)

## PBLは具体的な課題を設定するため、 課題解決という目標に向かって意欲 的に取り組むことができ、その過程で 自分の方法論を獲得する」(九州工 業大学PBL教育推進室)という観点 から、中尾教授が中心となり2008年 に本格導入。大学生向けのアクティ ブな学びとして実施してきたが、高校 生や小・中学生を対象とした出前講 義や模擬講義にも取り入れている。 ると感じてきました。

「大学教育は知識や技術の伝授より

も、個々の学生に適した方法論の習

得と確立を重視するべき。その点、

Win-Winの関係をいかに築くか 互いにとって実りの多い

マに合った研究者をreserchmap(※ 送ったんです。 いていますが、 の先生方とのご縁ができました。 ていい取組になりました。 進学につながった例もあり、 3)で探し、 範囲を東日本に広げ、生徒の研究テー チングしたかったんですが、それまでは 生 まざまな実践(図4)を行っていると聞 大学の先生のご専門と関係なく地元 延沢はい。 )後進を育てる点で喜んでいただけて |大学に送り出すものでした。そこで 徒の課題研究と大学の研究室をマッ ≧問の「リメイク」を担当しました 最後に延沢先生。 個人としてさ 一件ずつお願いのメールを 例えば前任校では研究 例えばどのような? 大学側には、 私も、 双方にとつ 専門分野 大学

未来などSDGS的なものにもつなが 携わる人すべての成長や、 地域の うこと。 かミーティングを重ねています いかにWin-Winの関係にする

て、

うえで、 のでは、 前講義って、 よって、 広報目的になりやすいんですよね。 視野で行うもの」という話につながる ているからではないでしょうか。 受賞者の数が、 中尾 こは気をつけようと思っています。 んですが、 ながることって多いんです。 大変な立場もわかってきました。 大学の先生を招いてお話を聞く機会 (員に多いのも、日常的に教育に携わっ するなかで、新たな見方や発見につ あるため、 有志の研究会を複数立ち上げていて、 高校側の都合での無理なお願いに そこは気をつけたい点です。 お気遣いありがとうございます 人に教えたり、一緒に考えた 貴重な研究の時間を奪っている と申し訳なくもなるのです。 先ほどの「高大連携って広い 残念ながら大学が行う出 高校生に大学の名を売る 大学の先生が置かれた 研究機関より大学の ノーベル賞 その なの そ 私

大学は学生募集につながるかが判断材 フォーカスするべきなのに大人の思惑が 「初は本学志願者のみを対象にしよ この一つになります。「ディスカバ!」も 在するとややこしくなる。とはいえ、 ちになります。 を含め関係性の強い高校に偏り 確かに高大連携は、 高校生の成長に 立地

図3:中村先生の実践

高校生が集う学びの場をつくることが さまざまな興味・ うと考えたこともありますが、 こまりました。 結果として全国から 関心をもつ、 多様、 思

なる。 さないといけませんね 目先の利益にとらわれると青田買いに 中尾
インターンシップの枠組みも同じ 大学の思惑と企業の思惑があって そうした社会構造から抜け

で、

できました。

## 自ら手を伸ば. 自走するマインドを育むために

中尾 せつかくなので互いへの要望があれば 探究というキーワードで高校生の発表 気になることがあるのでいいですかっ -実践をひと通り伺ったところで | 工科系大学の教員として少し

## アントレプレナーシップ教育

「吉賀町の人々と共に、吉賀町の未来を創る」活動を 通して、自分自身や地域社会の未来を創る力を身に つけるための授業。地域の人々や卒業生、都市部の 大学生と協働し、現実の社会を動かす試みを、総合 的な探究の時間を中心に3年間かけてチャレンジす る。キャリア教育としてだけではなく、ここ数年は探究 色を強めた本格的な課題解決型学習を推進。小中 高を貫く吉賀町全体の教育ビジョン「サクラマスプロ ジェクト」とも連動し、「小さな町の小さな学校」だから こそできる学びとなっている。

### 図4:延沢先生の実践

## 高大連携に関する 5つの個人的取組

①学びのきっかけや憧れづくり (キャ ンパスツアー・出前講座等)②生徒 の研究テーマと研究者をマッチング した研究室訪問や課題研究③授業 コラボ (例えば、魯迅の単元で文化 人類学者を招く等。知識の有無が 「読み」を変える経験をさせるねらい) ④非認知能力や高校版IRなどの共 同研究⑤入試改革や高大接続をデ ーマにした研究会の企画運営(「全 国女性進路指導研究会」等5つの 研究会運営に携わり、全国の教育 関係者や大学教員とつながる)。

以前は、 らないでしょうか? がった高校生を埋没させることにはな 価しようという流れのなかで、 で探究しようとか、入試でそれを評 する発表が多かったんですが…。 や生物部の生徒さんを中心にワクワク のレベルが落ちた印象があるんです。 が行われることが増えましたが、 SSHの課題研究や、 全体 を、 なく、 とは、

キュラム内で大学生顔負けの研究をし 載になりますから。 かからないと探究も「やらされ感」満 かどうかも大きいでしょう。 て「みんなでやろう」となりがち。 は違っていいはずなのに、 し悪しはともかく、 平均値は下がりますよね 本気で取り組みたいテーマなの 人つて多様なんだから、 みんなでやれば当 ただ、高校のカリ 教育の世 エンジンが やり 界の 良 方

あるのかもしれません。 てもらうだけでも高大連携の意義 けばいいか」といったマインドを理解し のために高校までに何を身につけてお ますが、 学びに向かう態度に注目すればいいん 中尾 私などはつい研究の中味を問い 「大学は自分で学ぶ場所。 もつとゴール地点を低くして、 そ

大連携の一歩だと思いました。

探究を柱とする新学習指導要

互いの本音を話してみることが

ります。 備するところまでかなと。でも、 自身でやり遂げる」といった組み合わせ ができるってすごいことですよ。 うしたいかを考え、自走できるよう準 思ったら個別最適化を進めていくしか 身が考えなければいけないと思います。 は大学のリソースを使い、ここは自 周囲の助言を受けつつ生徒さん自 課題を見つけ、それに対してど それこそ外部の力も必要にな 探究の質を本気で高めようと ただ、一般の高校でできるこ それ

す。 ける気がします。 り替えやすいのでは? などを通じて、そういうマインドに切 高校でも探究やアクティブ・ラーニング ることっていわれていますよね。 ド」から「自分で学ぶマインド」に変わ は何かといえば、「教えてもらうマイン の後の学びも自分の力で乗り越えて行 ようになることが大切だと思っていま 延沢私も、 それさえできれば、 自分から手を伸ばせる 高校と大学の違い 受験も、 今は、 そ

辺までは正課の時間でやって、

その先

ようと思うと限界があるため、「この

をもつべきだと思いました。それによっ と高校の先生や高校生と接する機会 員ではなく、 ようになる。 まさに本日の座談会のよ

気づかなかったものが見えてくる

数多くの教職員が、

もつ

# 単につながればいいのではなく、 何のために、どのようにつながるか

延沢先生

# 育てて、つなぐ。その先の未来

思ってもらえるよう、

大学の価値につい

く、「やはり大学の学びは面白い」と

**゙なんだよ」とがっかりされるのではな** 

の先生に限らず、 うな高大連携を模索していきたいです。 ICTによって地方と都市部をつなぐ 広く交流しながら、 が大切だと思います。 事にしたいことをお話しください 人と一体となって課題解決していくよ ことも容易になってきたので、 な新しい形を考えられたらいいなと。 だけではなく、人と人とをつなぐこと 中村 地方の小規模校を代表するな 中尾 大学の人間としては、 学びをアカデミックなものにつなぐ 蕞 殺に、 これからの高大連携で大 身の回りの人とも幅 地域の持続可 大学生や大学 一部の教 多様な

> いのではないでしょうか。 なることなしに、 座談会のテーマに「育てて、 がるかが大切だと思いました。 なりかねないんですね。 ありますが、 て考え続けていきたいです。 延沢。改めて、単につながればいいので はなく、 何のために、どのようにつな それだと教師が主語に 高大接続はありえな 生徒が主語に つなぐ」と 今日

いこと、 の連続性のみならず、非連続な設計に 能性もあるのでは。 プ」になってしまい、 乗り越えるべき「ステップ」が、「スロー いとも思うんです。 な機会をありがとうございました。 も目を向けて、 るはずで、 あと、やはり大学は大学でいてほ い直しが大切だと思いました。 高校でしかできないことがあ そこを曖昧にしたままだと、 互いがなすべきことの 今後は、 成長を阻害する可 大学でしかできな 高大接続 貴重